

## 泌尿器科

2025年4月からは、2024年度に引き続き常勤医6名体制で診療にあたる。

当科では、腎臓、尿管、膀胱や男子生殖器に関するすべての疾患および副腎疾患について診断、治療にあたっている。最先端の技術を用い、最高水準の医療を提供するとともに、症例毎に最も適した治療法を選択できるようにしている。

手術においては、泌尿器疾患に対する腹腔鏡手術およびロボット支援手術（ダヴィンチ）を積極的に実施しているが、進行性腎癌や後腹膜腫瘍などの開腹手術もこれまで数多く経験している。

特に近年増加傾向を示す前立腺癌に対しては、2012年5月に当院第1例目のロボット支援前立腺全摘除術を施行して以降、多くの医師によって引き継がれ2024年11月に単一施設で1000例目を迎えることができた。前立腺癌に対するロボット支援手術は、近隣の実施施設も徐々に増えてきたため、実施件数は以前よりは少し減少したが、それでも多くの症例に対して実施している。また、手術による合併症を軽減するための術式変更にも積極的に取り組んでいる。

さらに、2016年4月から腎癌に対してもロボット支援手術が保険適応となり、当院でも導入し症例を重ねてきた。スタッフの入れ替わり等で当院での腎癌に対する腎部分切除術は一時中断していたが、ダヴィンチが新機種 of Xi に更新されたことにより2021年8月よりロボット支援腎部分切除術を再開した。その後、保険適応になったロボット支援根治的腎摘除術、腎尿管全摘除術、腎盂形成術も順次導入し、適応をよく吟味しながら症例を重ねており、ダヴィンチの新機種によるロボット支援腎・尿管手術も2024年度末までに52例実施している。現時点では、従来の腹腔鏡手術と並行して実施しているが、これまで腹腔鏡下に実施していた腎・尿管手術も今後はロボット支援手術へシフトしていくと考えられる。さらに、2025年度は施設基準が緩和されたロボット支援膀胱全摘除術の導入も検討しており、当院でのロボット支援手術症例はさらに増えていくこ

とが予想される。

一方、手術療法のみでは根治困難な悪性疾患症例に対しては、薬物および放射線治療を組み合わせ、集学的な治療を行っている。特に各癌種に対する化学療法も保険適応になった新規薬剤を積極的に取り入れて治療を行うようにしている。

また、排尿障害、尿路結石症および尿路感染等の症例も増加傾向を認めており、入院が必要な症例であれば、いつでも受け入れる体制としている。特に、手術治療では良性疾患である前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺レーザー核出術（HoLEP）や、尿路結石、特に大きなサンゴ状結石に対する経皮的経尿道的同時腎碎石術（ECIRS）を積極的に取り入れることで、ご紹介いただく例が増加し実施件数も多くなってきた。病状が安定し、内服加療で落ち着いた状態であれば、近隣のクリニックおよび医院での投薬継続を依頼させていただいている。

（記載者氏名 古瀬 洋）

・医師数 4名 ・専攻医 2名  
・初期研修医 0名

（2025年4月現在）

【入院患者】（単位：人）

	2020	2021	2022	2023	2024
新 入 院	1,046	1,067	960	930	1,083
退 院	1,066	1,105	973	930	1,086
延べ人数	8,691	9,291	6,802	6,544	7,580
一日平均	23.8	25.5	18.6	17.9	20.8

【外来患者】（単位：人）

	2020	2021	2022	2023	2024
新 来	576	614	574	626	638
再 来	12,278	3,218	11,641	11,696	11,679
延べ人数	12,854	13,832	12,215	12,322	12,317
一日平均	43.9	47.2	41.7	42.1	42.0

【平均在院日数】（単位：日）

年 度	2020	2021	2022	2023	2024
日 数	7.2	7.5	6.0	6.0	6.0